令和７年度
京都市会議員団による台南市派遣報告書

令和８年２月

台南市派遣京都市会議員団

はじめに

京都市があらゆる政策の最上位の都市理念と位置付け、文化による世界平和の実現を希求した「世界文化自由都市宣言」に基づき、京都市会と台南市議会とは、平成２４年４月に台南市が世界歴史都市連盟に加盟して以降、台南市議会議長や台南市長等による本市への訪問をはじめ、機会あるごとに交流を重ね、友好関係を築いてまいりました。平成３０年６月には本市会において初めてとなる、議会友好交流協定を台南市議会と締結し、台南市議会訪問団による本市会への表敬訪問等の人的交流や、特にコロナ禍における物品の支援など、更なる交流と相互理解を深めてまいりました。

この度、台南市長から京都市長及び京都市会議長宛てに、京都市・台南市交流推進協定締結四周年及び京都陶磁器協同組合連合会設立五十周年を記念した、「陶藝台日交流展 in 台南－京都陶磁器協同組合連合会設立五十周年記念」開会式に御招待いただいたことを受け、台南市議会及び議会行政との意見交換や議会運営に係る調査並びに台湾国指定史跡の市民優待価格及び伝統産業品の販路開拓の意見交換などを兼ね、令和７年１２月１５日から１７日にかけて、京都市会議員団による台南市訪問を行いましたので、その概要を報告いたします。

京都市会からは、久保田正紀議員、加藤あい議員、平山よしかず議員、田中明秀議員、山本しゅうじ議員、北川みき議員、山本陽子議員、松田けい子議員が、京都市会議員団として台南市を訪問しました。

１５日は、台南市対日文化友好交流基金会及び京都陶磁器協同組合連合会等との夕食会に出席しました。

１６日は、市民優待（無料）価格を設定している、国指定史跡の安平古堡及び安平樹屋を視察し、台南市政府文化局古蹟営運科長と市民無料価格の考え方や財源確保の方法等について意見交換を行いました。また、安平剣獅陶坊を視察し、陶坊の宋建誠氏と、伝統産業品の販路開拓について意見交換を行いました。午後からは、台南市政府にて黄偉哲台南市長を表敬訪問し、今後の友好交流、相互連携の継続を確認した後、台南市議会事務局の顔秘書長ほか３名の職員と、議会運営等についての意見交換を行ったうえ、傍聴席から議場を見学しました。その後、台南市議会の邱莉莉議長、林志展副議長をはじめ、６名の台南市議会議員と市政等に関する課題について意見交換を行いました。夜は、台南市議会議員との夕食会に出席しました。

１７日は、「陶藝台日交流展」開会式に、草木京都市産業・文化融合戦略監とともに出席し、作品展や日本の茶道のデモンストレーションを鑑賞しました。

京都市会議員団としては、令和６年２月ぶりの台南市訪問となりましたが、台南市長や台南市議会はもちろん、台南市政府職員の方々と意見交換をし、また、市民優待価格の実施や伝統産業品の販路開拓について、貴重な意見交換の機会を得たことで、様々な気付きを得るとともに交流の輪を広げられたものと実感しております。

今後とも、今回の経験をいかし、本市における政策形成の展開につなげるとともに、世界文化自由都市宣言の理念である、都市間の友好交流の輪を一層広げ、相互理解を更に深めることで、歴史都市としての課題解決と両市の発展に寄与するよう努めてまいる所存です。

台南市派遣京都市会議員団　久保田　正紀
加藤　あい
平山　よしかず
田中　明秀
山本　しゅうじ
北川　みき
山本　陽子
松田　けい子

派遣報告

１　派遣先

台南市（台湾）

２　訪問期間

令和７年１２月１５日（月）～１２月１７日（水）

３　台南市派遣京都市会議員団

久保田　正紀　議員（市会運営委員会副委員長　維新・京都・国民市会議員団）
加藤　あい　議員（市会運営委員会副委員長　日本共産党京都市会議員団）
平山　よしかず　議員（市会運営委員会副委員長　公明党京都市会議員団）
田中　明秀　議員（市会運営委員会理事　自由民主党京都市会議員団）
山本　しゅうじ　議員（自由民主党京都市会議員団）
北川　みき　議員（維新・京都・国民市会議員団）
山本　陽子　議員（日本共産党京都市会議員団）
松田　けい子　議員（公明党京都市会議員団）
随行：大西　則嘉（京都市会事務局次長）
　　米田　善紀（京都市会事務局議事課議事係長）

４　派遣の目的

京都市会と台南市議会は、平成２４年に台南市が世界歴史都市連盟に加盟して以降、台南市議会議長や台南市長等による本市への訪問をはじめ、機会あるごとに交流を重ね、友好関係を築いてきた。

平成３０年には、京都市会において初めてとなる議会友好交流協定を台南市議会と締結し、台南市議会訪問団による表敬訪問等の人的交流や、コロナ禍において台南市や台南市台日文化友好交流基金会から保護メガネ等、物資の支援を受けるなど、更なる交流と相互理解の取組を進めてきている。令和３年６月には、京都市と台南市においても交流推進協定を締結している。

この度、台南市長から京都市長及び京都市会議長宛てに、京都市・台南市交流推進協定締結四周年及び京都陶磁器協同組合連合会設立五十周年を記念した、「陶藝台日交流展 in 台南－京都陶磁器協同組合連合会設立五十周年記念」開会式に御招待いただいた。

台南市は、台湾の中で最も歴史が古く、「台湾の京都」とも呼ばれ、歴史都市、観光都市としても発展しているなど、本市との共通点が多くあるため、政策上の課題や取組について共有を図ることは、双方にとり有益である。

このため、台南市からの招待に応じ、議会同士の交流がある京都市会から訪問団を派遣し、加えて、台南市長への表敬訪問、台南市議会及び台南市政府職員との意見交換などを通じた双方の議会の取組の調査、国指定の史跡における市民優待価格制度についての意見交換、陶芸工房視察及び伝統産業品の販路開拓についての意見交換などを通じ、視察調査のみならず人的交流の促進を図る。

これらにより、議会友好交流協定に定める「京都市会と台南市議会がこれまで培ってきた友好関係を確認し、更に促進させるとともに、京都市と台南市との間において、市民同士の交流の輪を広げ、様々な分野にわたり相互理解を深

め、もって両市の発展に寄与する」ことの継続的な取組の実現を図る。

また、今般の派遣による一連の経験をいかし、政策提案を行うことなどによって、京都市会基本条例に規定する市会の役割を的確に果たしていく。

＜京都市会基本条例に定める市会の役割＞（関連項目抜粋）

- 民意を反映する市会の特色をいかして、執行機関では成し得ない政策立案及び政策提案を行うこと。
- 市長等との議論を通じてより良い政策及び施策の実現に努めること。
- 充実した調査研究を基に、活発な審議及び審査並びに議員間における討議を行い、意見を集約すること。

５　主要行程

月　日	現地時間	内　容	日本時間
12 月 15 日（月）	8：22	京都駅発	
	11：55	関西国際空港発	
	14：30	高雄国際空港着	15：30
	16：30	ホテル着	17：30
	19：00	京都陶磁器協同組合連合会等との夕食会	20：00
	21：00	ホテル着	22：00
12 月 16 日（火）	9：00	ホテル発	10：00
	9：30	安平古堡（ゼーランディア博物館）・安平樹屋視察	10：30
	10：00	台南市政府職員との座談会	11：00
	10：40	安平剣獅陶坊視察・意見交換会	11：40
	14：30	台南市長表敬訪問	15：30
	15：00	台南市議会行政との意見交換会・議場見学	16：00
	16：00	台南市議会議員との意見交換会	17：00
	18：00	台南市議会議員との夕食会	19：00
	20：30	ホテル着	21：30
12 月 17 日（水）	8：45	ホテル発	9：45
	10：00	「陶藝台日交流展 in 台南 －　京都陶磁器協同組合連合会設立五十周年記念」開会式	11：00
	13：00	高雄国際空港着	14：00
	15：25	高雄国際空港発	16：25
	19：15	関西国際空港着	
	22：03	京都駅着	

６　派遣報告

（１）市民優待価格を設定している施設の視察

１　**日　時**　令和７年１２月１６日（火）９：３０～１０：００

２　**場　所**　安平古堡（ゼーランディア博物館）、安平樹屋

３　**出席者**

台南市台日文化友好交流基金会　職員

台南市派遣京都市会議員団

４　**施設の概要**

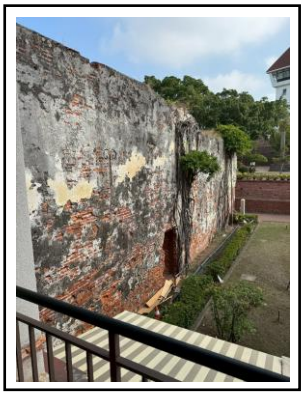
⑴　安平古堡（ゼーランディア博物館）

1624 年にオランダ人の手によって建設された、台湾で初めての城（ゼーランディア城）。かつてオランダ人による統治の中枢とされ、対外貿易の中心地でもあった。もともと正方形をした内城と長方形の外城から構築されていたが、1661 年、鄭成功がオランダ人の手中から台湾を奪回し、故郷を記念してこの地を安平と改名した。「王城」または「台湾城」と呼ばれていたことから、俗称、安平古堡ともいわれる。

清朝の康熙時代（1662 年～1722 年）には、台湾は正式に清朝の勢力下に収められ、政治の中心も台湾府城（現在の台南）に移されたため、中枢としての機能は次第に失われ、赤レンガの城壁も億載金城を建設するための資材として取り壊された。日本統治時代には、内城のオランダ風建物のすべてが壊され、赤レンガで造られた正方形の土台が残り、西洋風の部屋が建てられ、税関の宿舎として使われた。

ゼーランディア博物館は史跡内にあり、安平古堡にまつわる歴史や遺物が展示されている。

安平古堡には、台南市民は無料で入場できる。

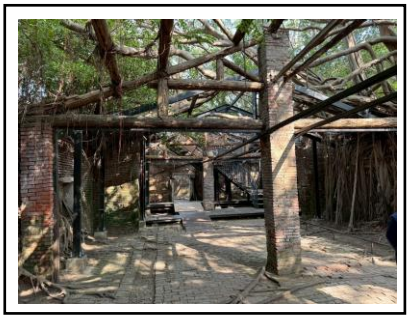


⑵　安平樹屋

１９世紀末から日本統治時代初期にかけて建てられたもので、もともとはイギリス商の徳記洋行の倉庫だったが、日本が台湾を統治すると「大日本塩業株式会社安平出張所」の倉庫とされた。現在の姿は日本人によって増築されたもの。広さは 1,400 坪あまり。100 年あまりの歳月を経て、倉庫の壁にはガジュマルの根が絡みついている。屋根から突き出た枝と幹や垂れ下がった気根により、ガジュマルの幹が壁を這い上が

り、葉が屋根を覆いつくす特殊な景観が生み出されている。ガジュマルが建物に絡みついた姿は半ば放棄されていた間に自然と形成されたものだが、それが素晴らしい光景となっているため、それを資源として活かして観光地として整備されたものである。

台南市民は無料で入場できる。



（安平古堡視察の様子）

（安平樹屋視察の様子）

（２）台南市政府職員との座談会

１　日　時　令和７年１２月１６日（火）１０：００～１０：３０

２　場　所　安平樹屋カフェ

３　内　容　市有施設等の市民優待価格の設定について

４　出席者

台南市政府　文化局　古蹟営運科　科長　李　雪慈　氏

台南市派遣京都市会議員団

５　座談会の内容まとめ

安平地区の特色として、多くの史跡が住民の生活空間と一体化しており、人々は歴史に囲まれた環境で育っていることや、オランダ文化と台湾文化が混在するエリアなど６つのコミュニティがあり、各コミュニティや文化局、区役所、民政局、寺院、宗教団体などが連携し、独自の民俗行事を開催し、一体的な文化を維持、醸成しているとのことであった。

また、世界中の観光客からの入場料と販売品の収益が文化財の維持管理の主な財源となっており、有料入場者からの収益で日常の維持管理は十分に賄われているとのことであった。

加えて、大規模な修復を必要とする場合には、中央の文化省と地方自治体である市から資金的な支援が受けられるとのことであった。これ以外にも、台湾ビールや鄭成功デザイン商品、文化局が自社で開発したデザイン性の高いオリジナル商品（地域文化を紹介する海苔など）は非常に人気が高く、年間数千万台湾ドルの収益を上げており、安定した財源確保に貢献しているとのことであった。

また、台南市民は京都市民と同様に、何世代にもわたって地域に住み続けており、史跡公園は「チケットを買って訪れる場所」ではなく、「生活空間の一部」であって、自宅の庭のように散歩するなど、無料で利用できるのが当然という感覚を持っている。また、市民が日ごろから史跡を生活空間として愛着を持って度々利用し、史跡内で飲食や休憩、お土産の購入などを行うため、入場料という形ではなく、そうした日ごろのサービスの利用の対価として､相当額の収益を得ることができているとのことであった。

確かに、観光施設が有料であれば、地元の方はそう何度も訪れないことが一般的であるが、逆の発想で、地元の方は無料とし、飲食や物販といったサービスの活性化を図れば、地元の方こそ何度も訪れていただける施設になり、施設維持のための財源も得ることができることになる。まさに、施設の有効活用と市民の利便の双方を実現する両得の考え方であると、非常に大きな示唆を得た。

以上のことから、台南市においては、市有施設等において市民を優遇する形で提供していくうえで、日常の維持管理費については入場料以外からの収入源を確保し、これを充てているということ、特に、市民が無料で利用できることから市民によって施設が利用され、これに伴う飲食や物販等による収入が相当額あること（市民による利用を含む物販による収益は年

約５千万円)、また、大規模な改修や修繕については必要に応じて国や自治体（市）からの財源の補助が行われているということが特徴であるとの認識を得た。

【主要な聴取内容等の記録】

○　安平地区について

・　安平は、台南市の中で一番早く発展した地域。１７世紀にオランダが残した城壁が、日本統治下の時代に元の形に修復され、今に残っている。この地区は人々の生活と文化と歴史が一体となって密接に結びついており、安平の人々の多くは、これらの史跡に囲まれた環境で育っている。

○　市民の生活について

・　安平には合計で６つのコミュニティ（エリア）があり、これらのコミュニティは、たくさんの史跡や寺院と深く結びついている。各コミュニティには独自の寺院があり、それぞれに信仰がある（長老派教会やカトリック教会など)。

・　文化局が史跡でイベントを開催するだけでなく、これら６つのコミュニティも独自の民俗行事を開催する。例えば、元宵節、端午節、中秋節、１６歳の成人式など、様々な行事が相互に関連している。これらは、無形の文化財である民俗行事と、有形の文化財である史跡や歴史的な街並みが完全に一体となっていることを示しており、このネットワークの中で文化局、区役所（区公所)、民政局といった様々な政府機関や、地元の区役所、そしてすべてのコミュニティ、寺院、宗教団体が協力し合っている。

・　安平は、安平古堡や安平樹屋といった有名な２つの史跡を含め、全部で６つのエリアに分かれているが、それぞれのエリアには、お寺と観光地と地元住民がおり、住民はそれぞれのエリアの文化に合わせて暮らしている。例えば、オランダ文化の影響が強いエリアと、台湾文化の影響が強いエリアがあり、さらに、イギリスに関連する教会、台湾のお寺などが混在しているのが、安平住民の暮らしである。

○　市民の無料入場について

・　台南と京都には、市民が何世代にもわたってこの地域に住んでいるという共通点がある。史跡公園は市民にとってチケットを買って訪れる場所ではなく、市民が育ち、成長する生活空間の一部であることから、その生活空間という条件のもとでは、市民は入場料を支払う必要はないと考えている。

住民にとって、史跡は有料で見るものではなく、自分の庭のような感覚であり、暇な時に散歩するなど、つまり有料や無料といった考え方がなく、全部散歩できるところを回って、この自然の中で暮らしていると

いう感覚である。

・　市民がこの場所を生活空間と捉えることで、彼らが訪れて飲食し、休憩し、お土産を買うようになるが、台南市はこの場所で商品販売を行う中小企業を支援している。

○　文化財の維持管理に係る財源について

・　世界各地から訪れる観光客の方々の入場料や販売品からの収入を文化財の維持管理に充てている。

　また、台南市内の学校の教職員や生徒も無料だが、これは、例えば台南に留学する人が、親戚や友人を連れて台南に戻ってきてくれることを期待している。彼らが入場料や記念品の購入、飲食店での消費を行ったことによる収入で、現在、財政的にはバランスが取れている。

・　日常の維持管理や清掃に関しては、基本的には入場料と販売収入により自給自足の形をとっているが、大規模な修復を必要とする場合には、中央の文化省から資金的な支援を受ける。この支援は、文化省からの補助金と、地方自治体である市の補助金の両方（負担は半分ずつ）から成り立っており、中央政府と地方政府が協力して大規模な修復を行っている。

・　訪問客のうち約１５％が無料入場で、残りの８５％で日常の維持管理を十分に賄うことができている。

・　台湾ビールや鄭成功をデザインした商品などが沢山あるが、非常に人気が高く、売り上げも非常に高い。また、商品の一つに海苔があるが、可愛らしく包装し、台南の台地と古都の様子を表現しているのに加え、裏には台南市の文化や民俗を紹介している。このようにデザイン性の高い商品がたくさんあり、これらはすべて文化局が自社開発したもので、これらの商品は毎年数千万台湾ドル※の収益をもたらしている。このことから、多くの市民が、たとえ入場料を払わなくても、実際にはショッピングでたくさんお金を使ってくれるので、財源を得ることができている。

　※　１台湾ドル＝約 4.95 円

○　景観政策について

・　安平地区に新たな建物を建てるときは、市政府に申請することになっており、高さや色、スタイル・デザインが規制されている。

・　建物を改装する際には、市政府からアドバイスをし、周囲の雰囲気に合うようにしてもらっている。

（座談会の様子）

（３）安平陶坊視察及び意見交換会

１　日　時　令和７年１２月１６日（火）１０：４０～１１：５０

２　場　所　安平陶坊　剣獅学堂

３　内　容　伝統産業品の販路開拓について

４　出席者

安平陶坊　宋　建誠　氏

台南市派遣京都市会議員団

５　概要

安平陶坊は、台南市安平区にある陶磁器の陶芸工房。休日には一般の方向けの体験教室を開催している他、専門的に学びたい方へのレッスンも行っている。坊主がこれまで地元において剣獅子（家の前に飾る口に剣を咥えた獅子）を広め、各家の前に様々な剣獅子が飾られているため、これが名所となり、剣獅子を作りに観光客も訪れるようになるなど、観光につながる取組が行われている。

６　意見交換会の内容まとめ

京都市では、伝統工芸の担い手が少なくなっており、後継者不足が深刻になっている。この傾向は台南市においても同様であった。台南市における伝統工芸に対する支援の面では、個人経営の場合は行政等からの支援を受けられず、厳しい現状にあるとのことであった。

そのような中でも、陶坊が地域に積極的に働きかけ、地域の観光振興における役割を果たしていることが分かった。

伝統工芸に対する支援は、京都市、台南市とも課題はあるものとの認識を得たところであり、今般の議員団の派遣における目的の一つである「陶芸対日交流展　in 台南　―　京都陶磁器協同組合連合会設立五十周年記念」は、京都市と台南市の陶芸関連団体が中心となって、相互に国際都市間連携を図り、陶芸展を行い、双方の文化交流を行うものであり、こうした取組に行政が積極的に参画していくことも、伝統産業の活性化に資する取組として非常に重要であるとの認識を得た。

【主要な聴取内容等の記録】

○　陶坊について

・　安平地区には多くの遺跡があり、生活する中で様々なアイデアが浮かんでくる。安平陶坊では休日には一般の方向けの体験教室を開催している他、専門的に学びたい方へのレッスンも行っているが、卒業生の中でも、この地区に興味があれば、ほとんどの方が台南市や安平地区に戻ってきて同じ仕事をしている。私（宋氏）も元は大学の教授だったが、台湾が好きなので戻ってきて、ローカルの文化を発展させるために、陶芸を教えている。

・　安平地区は６つのエリアにそれぞれの特色があるが、各業界が力を合わせて一緒に発展するという考え方。

・　安平地区を訪れる方のために、観光施設や体験場所を示したマップも用意している。

○　陶磁器について

・　安平地区で最も有名な陶磁器は安平壺と剣獅子（口に剣を咥えた獅子）で、剣獅子は台南市特有の置物である。安平地区は風が強い場所だが、剣獅子を家の前に置くことで風向きが分かり、また、泥棒などの魔除けにもなっている。安平地区に初めて来た時には、地元の老人に無料で作り方を教えることも行っており、そこで作ったものが飾られる。住居の下に飾ったり、住所にも書かれていたりするが、これらはすべて手作りで、元々は面白い時間潰しだったものが段々ブームになり、このエリアから発展し、観光客も作りに来るようになった。

・　素材も改善しており、牡蠣の殻を使っている（安平地区には有名な牡蠣がある。）。元々の発想は環境に優しいことや、コスト節減のためだったが、メディアからの取材があり、そこで紹介・アピールを行った。

・　休日に家族などと一緒に陶芸を体験し、自分で作って持ち帰ることが記念になる。

○　伝統工芸の担い手不足について

・　台湾も日本と同じく、少子化により伝統工芸に携わる方が少なくなっている。昔は生活のために伝統工芸を生業にしていたが、現在では、陶芸などを好きで、やりたいから携わるという傾向にある。人は少ないが、そういった方の熱意が凄く高い。

・　国や市からの補助はない。財団法人や協会などは計画書や企画書を書き、政府に提出すれば予算が下りるが、民間の団体はなかなかないため、自分でやるしかない現状にある。

（陶坊の外観）

（陶坊の視察）

（意見交換の様子）

（安平壺）

（剣獅子）

（４）台南市長表敬訪問

１　日　時　令和７年１２月１６日（火）１４：３０～１５：００

２　場　所　台南市政府

３　出席者

台南市長　黄　偉哲　氏　　他

台南市台日文化友好交流基金会　栄誉董事長　郭　貞慧　氏

台南市派遣京都市会議員団

４　台南市長表敬訪問の概要

〇　台南市長からの挨拶

近年、台南市と日本の都市とで頻繁に交流を行っている。１２月１５日には日本（友好交流協定都市・山形市）の高校生４００名が修学旅行で訪

れた。台南市内には日本統治時代の建物が沢山残されている。ぜひこのような修学旅行を通じて、台南市と日本の関係の深さを次の世代にも教えたいと思っている。

また台南市と京都市は、今まで数多く学生の相互訪問や交流などを行ってきた。これからも文化やスポーツ、音楽などを通じて、互いの若者たちの友好関係をさらに促進していきたい。

学生だけでなく、これからも幅広い分野での交流を歓迎している。今後も台南市と京都市の更なる友好に御協力いただければ幸いである。

○　久保田副委員長からの挨拶

台南市は、長い歴史を教育に伝える建物や文化財を保存し、街づくりに活用するなど、京都市との共通点が数多くある。その台南市から知恵を拝借すべく、安平古堡の市民無料開放の制度について、台南市政府の方と意見交換をさせていただいた。

陶芸台日交流展を通じて、互いの文化について相互理解を深め、両都市間における市民同士の交流が広がることを期待している。

今後とも京都市と台南市の友情の絆がさらに深まるよう、引き続き交流をお願い申し上げる。

○　台南市からの要望等

・　京都市と台南市の間では、学生もさまざまな形で交流している。例えば、私たちは台南産のブドウやパイナップルなどを京都市の子供たちに送って交流を深めたりしている。京都市と台南市の高校生達が、食の名産品（フルーツなど）を食事しながら交流できる機会があればよいと思う。

・　子ども達の野球交流を近年頻繁に行っている。台湾は特に野球チームが強く、機会があれば、互いの学生の野球チームでスポーツ交流ができればよいと思う。また、野球だけでなく、あらゆるスポーツ分野での交流ができればよいと思う。

・　双方の学生の教育旅行促進という面において、台南市では、歴史ある建物や文化財、企業の情報などを紹介する日本語のパンフレットを作成している。今後京都市の学生が台南市に来ることがあれば、役に立つと思う。

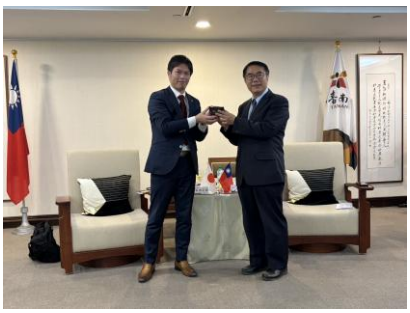
・　（台南市長が）来年度、京都市を訪問させていただこうと思っている。

（出席者一同）

（台南市長挨拶）

（久保田議員挨拶）

（記念品贈呈）



５　その他

台南市長表敬を行う際、事前に台南市庁舎４階の台南市における国際交流の軌跡を展示しているスペースを視察した。当該スペースは、市庁舎の４階、一フロアを丸々使用して設けられており、台南市がこれまで進めてきている数多くの国際都市との交流の様子が資料やパネルとともに展示されていた。そこには、京都市、京都市会との交流の様子も大きく展示されており、台南市が国際交流を大切にし、積極的に進めていることや、交流している都市に対して敬意をもって接していることが見て取れた。

（展示フロア）

（視察の様子）

（５）台南市議会行政（事務局職員）との意見交換会

１　日　時　令和７年１２月１６日（火）１５：００～１５：４５

２　場　所　台南市議会永華議事堂

３　内　容　台南市議会における広報の取組について
　　議会におけるデジタル技術を活用した取組について
　　文化財の保全活用を目的とした条例について

４　出席者

台南市議会事務局　秘書長　顔　昇祺　氏
　　行政組主任　劉　玠成　氏
　　公共事務組主任　曾　蘭芬　氏　　他
台南市台日文化友好交流基金会　栄誉董事長　郭　貞慧　氏
台南市派遣京都市会議員団

５　意見交換会の内容まとめ

台南市議会においては、紙媒体やＹｏｕｔｕｂｅ、ＳＮＳ等の活用、ＤＶＤやチラシ・パンフレットの作成など、積極的に広報に取り組まれていた。特徴的な点として、台南市では、テレビに専用のチャンネル（チャンネル３）を設けており、重要な情報や議論されている内容は、インターネットによる視聴だけではなく、これらを使わない市民を含め、全市民が見られるようにしているということであった。この他に、大学生に対しては、議会中に見学する機会や議員と直接話をする機会を設けているとのことであった。若者の政治に対する関心も強いとのことであった。

また、議会の議事録はデジタル化されており、原則紙での印刷・配布は行われていないとのことであった。

このほか、ゼーランディア博物館及び安平樹屋の視察や、台南市政府職員との座談会を受け、歴史や文化を活かした取組についても質問したところ、台南市は京都市と同じく、数多くの文化財を有しており、歴史ある街並みを整備するために、議員からの提案に基づいて市町村がその改修をサポートする政策（イベント等で使用することも目的に、個人の所有する建物の改修に対して助成金を支出）を導入しているとのことであった。

【主要な聴取内容等の記録】

○　台南市議会における広報の取組について

京都市においては、市や議会の情報を市民しんぶん、市会だよりを配布することで周知している。基本的には全戸配布だが、実際には約７割程度の世帯に届けているが、台南市では、どうやって市民へ情報を届けているのか。

⇒・　台南市では、毎月、政策に関する情報をオンラインで公開するとともに、３か月ごとに情報を纏めて議会に提出し、情報を発信している。

この他に、①雑誌を通じた広報　②新聞（紙媒体）　③テレビ放送　④公式ＨＰやＹｏｕｔｕｂｅ、メディア、ラジオ局　⑤ＳＮＳ（ＬＩＮＥ

やＦａｃｅｂｏｏｋ）　により広報している。オンライン情報に関しては、これらを通じてリアルタイムな情報を随時発信している。

・　来訪された方々に向けた、議会の機能や議員を紹介するＤＶＤは、４か国語（英語、中国語、日本語、台湾語）に対応している他、チラシやパンフレットを作成している。

・　定例会や臨時会で検討される全ての議事日程を公式ＨＰで公開し、テレビ中継やオンラインライブ配信を通じて、市民がいつでもスマートフォンやテレビで議会情報を確認できるようにしている。なお、テレビには専用のチャンネル（チャンネル３）が設けられており、広報局が情報を流しているなど、重要な情報や今議論されている内容は、必ず全市民が見られるようになっている。

・　各政党が政治的立場を表明したり、公益活動を行う際には、議事堂（内の部屋）で記者会見を開くことができる。記者室も設置しているため、報道機関は常に最新のニュースを報道し、リアルタイムで市民に伝えている。

・　京都市会のまたきち、マタリーヌのようなマスコットキャラクターは製作していない（議長の笑顔が最高のキャラクターとのこと）。

○　学生と協力した広報の取組について

京都市会では、学生に関心を持ってもらうために、美術工芸高校と連携して、高校生にポスターを制作してもらうといったことに取り組んでいるが、台南市議会ではどうか。

⇒・　議会の休会時には、小中高校生の見学を受け入れている他、ニーズがあれば、イベントや講演会の会場として貸し出している。

・　大学生に対しては、議会中に見学してもらうことで実際の議員の仕事を知ってもらったり、直接議員に質問する機会を設けたりしている。また、議会に興味のある大学生は、議員の事務所にボランティアに行ったりもしている。

○　議会におけるデジタル技術を活用した取組について

京都市会は、ようやくデジタル化・ペーパーレス化が進んできたが、過渡期であり、まだ紙とデジタルが共存している状態である。台南市議会では、環境配慮やデジタル化の取組を行っているか。

⇒・　今までの議事録は書面で、莫大な量があるが、現在はCD媒体でデジタル資料化されている。議員へ議事録を送る時は、紙ではなくデータを議員のメールアドレスに送っている。必要があれば紙で印刷するが、原則はデジタル版のみ。

・　一部の証明書などはまだ紙が必要。将来的には、より多くの証明書を電子化したいと考えている。郭栄誉董事長が観光局長だった時は、書類の半分は紙で、半分は電子化されており、紙でないといけない証明以外

は、できる限りＷｅｂサイトとＶＰＮ（Virtual Private Network：仮想専用線。暗号化技術を用いてインターネット上に「仮想的な専用トンネル」を構築し、安全なデータ通信を実現する技術）を通じてサインしていた。

○　文化財の保全活用を目的とした条例について

街には歴史ある古い建物などが現存しているが、これらの保全活用を目的とした条例があると聞いた。今後は歴史や文化を活かした取組をしていこうと考えているか。

⇒・　（行政側でないと答えられないという前置きの元で、劉主任が過去文化局に在籍されていた経験から回答があった。）

・　台南市は長い歴史を持つ街であり、多くの文化財がある。日本と同様に、条例に基づいて、これらの文化財はレベル分けされており、歴史的建造物、市指定古蹟、国指定古蹟などがある。また、無形文化財もあり、その多くは獅子舞や様々な舞踏など、伝統芸能に関連している。

・　歴史ある街並み、特に新化区のような古い通りにある建物（個人所有）の外観を整備するために、議員からの提案に基づいて市町村がその改修をサポートする政策を導入している。これは条例を改正し、助成金を出すことで、個人の所有する建物の改修を可能にするもので、助成金を使うことによってリフォームし、イベント開催などの経済活動を行っている。

（意見交換の様子）

（６）台南市議会　議場見学

１　日　時　令和７年１２月１６日（火）１５：４５～１６：００

２　場　所　台南市議会永華議事堂　傍聴席

３　出席者

台南市議会　議長　邱　莉莉　氏

台南市議会事務局　職員

台南市台日文化友好交流基金会　栄誉董事長　郭　貞慧　氏

台南市派遣京都市会議員団

４　視察内容

当日は議場において委員会が開催されており、台南市議会の邱議長及び台南市台日文化友好交流基金会の郭栄誉董事長の案内のもと、傍聴席から見学を行った。

途中、京都市会から訪問団が訪れていることについてアナウンスがあり、各議員から傍聴席に向けて歓迎の意を示していただける場面があり、高い歓迎意識を持っていただいていることを改めて実感した。

特徴的な点としては、議員の服装は比較的自由であり、邱議長から、例えば農業が盛んな地域から選出された議員は、農地用のＴシャツを着用していたりするとのことであった。また、各議員の氏名が大きく表示されたジャンパーを着用している議員も多かった。

議員の席については、一人ひとり、相当にゆとりのあるスペースがもうけられていた。一人一台ずつ電話も設置されており、個別のデスクのような機能を備えたしつらえであった。議員は、会議中に自由にこれを使用し、自らの事務所の職員や市の部署などと必要な連絡を取り、必要な情報を調査したりしながら、委員会での審議ができるとのことであった。

傍聴席には、傍聴者用のモニター、車いすの方のためのスペースなどが設置されていた。現在は、インターネット中継が行われているため、傍聴者はそちらを利用されることの方が多いとのことであった。

（議場　委員会の様子）

（傍聴席）

（傍聴席モニター）

（議場内モニター）

（７）台南市議会議員との意見交換会

１　日　時　令和７年１２月１６日（火）１６：００～１７：００

２　場　所　台南市議会永華議事堂

３　内　容　市政等に関する課題について

４　出席者

台南市議会　議長　邱　莉莉　氏
副議長　林　志展　氏
議員　沈　家鳳　氏
議員　陳　秋宏　氏
議員　沈　震東　氏
議員　郭　鴻儀　氏
議員　蔡　筱薇　氏

議員　朱　正軒　氏

台南市台日文化友好交流基金会　栄誉董事長　郭　貞慧　氏

台南市派遣京都市会議員団

５　意見交換会の内容まとめ

訪問団から、台南市議会議員側に対して、若い世代の政治への関心の低さや政治参画のしづらさなどについて台南（台湾）の状況を尋ねたところ、台湾では直接選挙で総統選挙が行われていることや、若者においても自分の一票が生活に結びついている意識が強く、政治に熱心であるとのことであった。また、政治家に対して支払われる報酬や費用が日本に比べると、相応に保障されており、若者が政治家になるために経済的に立候補しにくいということを課題として認識しているということはあまりないとのことであった。台南市議会側からは、日本は総理大臣が間接的に選ばれることなどから、自分の一票に対する感覚の違いがあるのかもしれないといった考えが示された。

一方で、台湾では、京都市が導入している宿泊税が一律１万円になるかのように捉えられていた背景があったようで、台南市議会側からは、宿泊税の見直しについて、強い関心をもって訪問団に対し質問があった。訪問団からは、宿泊金額に応じた負担とする中で、最も上位は１万円となるが、一般的な宿泊において、そこまで高額になるものではないことを説明したところ、安心された場面があった。このほか、台南市議会側からは、台湾から京都へ観光で訪れる人が多いため、京都市における観光課題への取組の状況、台南でも課題となっているコロナ禍を経ての伝統工芸・伝統産業への支援に関する京都市の状況や少子化対策の状況について、強い関心をもって質問を受けた。

こうしたやり取りの中で、訪問団としては、台南市が京都市を身近な観光都市として日頃から注視し、宿泊税や観光課題の発生、また京都市が取組をしようとしていることについて大変よく認識されており、また、台南市と同じく伝統工芸・伝統産業が盛んな都市としても注視されており、親近感を持って捉えられていることを改めて実感した。

ただし、正確な情報は必ずしもしっかりと伝わっておらず、センセーショナルな情報が先行している節があるため、正確な情報が伝わるような工夫をしていくことの必要性を改めて認識した。

京都市と台南市は、多くの文化財を有する古都であり、伝統工芸や伝統産業が盛んであるが、近年はこの分野への支援が共に課題であること、少子化対策についても両市共通の課題であることなどの認識を共有した。

このほか、京都におけるボーイスカウトの活動の支援状況についての質問やボーイスカウト活動を通じた台南市と京都市との交流の申し出を受けた。

【主要な聴取内容等の記録】　○：訪問団からの質問　●：台南市議会からの質問

○　若い世代の政治参加について

京都市においては、投票率の低下など、若い世代の政治に対する関心の低さが課題であると思っている。日本全体でも、若者は５人に一人も投票に行かないのが現状。若い人に「投票に行こう」と思わせるために、台南市議会として工夫していることはあるか。

また、台南市議会の議員は若い人が多いとのことだが、日本では仕事を辞めて立候補することになるなど、経済的な障壁もある。若い人の政治参加の状況についてお聞きしたい。

⇒・　両国の歴史や国際的な政治的背景が異なっていると感じる。台湾では総統選挙に若者も投票できる。自分の権利に関わる意識もあり、台湾の若者は政治に熱心である。日本の総理大臣は間接選挙であるため「自分の１票」の実感が得られにくい面があるのかもしれない。

・　台湾では、若者が政治家に立候補するに当たっては、経済面が障壁だという意識はあまり持っていない。立候補したい若者は、議員秘書を務めるということもよくある。日本と異なり、議員には、報酬のほかに、複数の秘書を雇うに足る相応の費用が支給され、議員も秘書を雇用しやすい。また、選挙のために地元で起業して人脈を拡大するといったことを兼ねるといった形で政治家を目指す場合もある。

●　宿泊税について

京都市の宿泊税が大変高くなると話題になっている。日本の自治体で一番高く、オーバーツーリズムの解決策と言われているが、宿泊料金が高くなりすぎると観光客が減ると考えるがどうか。

⇒・　宿泊税は引き上げたが、いわゆる「ボリュームゾーン」と言われている宿泊料金６千円以上１０万円未満の部分はほとんど変えてはいない。例えば宿泊料金６千円以上２万円未満の区分を２百円から４百円に、２万円以上５万円未満の区分を５百円から１千円に引き上げた程度である。ただ、宿泊料１０万円以上の区分は１万円を課すこととしている。その点を取り上げて集中的に報道されたため、等しく１万円課税されるという誤解が広がっている面がある。１０万円以下の部屋であれば、あまり変わりはないため、安心して京都にお越しいただきたい。

●　観光課題について

京都市の観光課題は台湾人が観光で京都を訪れるうえでも関心のある問題。ゴミの問題や、バスの利用など交通の問題などがあると思うが、これらに対し、京都市が講じている対策はどのようなものか。

⇒・　オーバーツーリズムは、京都市では大きな問題・課題である。時間や場所、季節といった観光の分散化に取り組んでいる。

・　交通問題も大きく、観光客の利用が増加し、市民でも、バスに乗れな

い人が生じている状況。観光客の利用に合わせ観光特急バスを導入するなど、多くの対策が取られているが、十分に解決されていない。短期間での解決は難しく、更なる改善が必要と認識している。

・　ゴミ問題は、観光地の商店街や地域の方々の協力を得てゴミ収集を行うなど、市民の協力を得ている。また、企業等からの寄付により、ゴミを５分の１ぐらいに圧縮して収容できる「スマートゴミ箱」を設置するなどしている。しかし、ゴミ箱があっても、住宅の周辺や玄関前にゴミを捨てられたりして困っている市民もおり、対応に難しさを感じている。

・　民泊対策にも取り組んでおり、住宅地における民泊を規制すべきだという住民からの要望を受け、現在、条例改正が可能かの議論がなされている。

●　コロナ禍における伝統工芸・伝統産業への支援について

コロナの影響で様々な伝統工芸が打撃を受け、芸舞妓の活動も減少していると聞いているが、これに対する京都市の対策はどうか。

⇒・　伝統工芸・伝統産業については、コロナ禍は日本全体、そして京都市にとっても本当に厳しい状況だったが、そうした中でも京都市は伝統工芸・伝統産業を守るため、様々な取り組みを行い、補助金を支給するなどして守ってきた。

・　日本全体の中でも京都市は伝統工芸品が多い都市であるが、そういった都市を中心として、伝統工芸を有している市の議会が、「全国伝統工芸品振興市議会協議会」を組織し、伝統工芸品の需要の喚起と販路の拡大に寄与する取組を行っている。

・　また、例えば京料理、花街の文化、地蔵盆といった、京都に根差しているものをしっかり取り上げて、市民的な認識の価値を高めるよう努めるなど、日本の、特に生活文化の中心が京都であるということを、他の市議会とも共有して取り組んでいる。

●　少子化対策について

少子化が進むと税収が不足するため、財政難になるが、京都市はどう対策しているか。

⇒・　少子化が進み、税収が少なくなるというのは、台南市や京都市だけでなく、世界中どこでも起こっていることだと思うが、その中でありとあらゆる給付金の交付や、若者世代、子育て世代が住みやすい街づくりなど、色々なことに一生懸命取り組んでいるところ。

・　例えば、生まれてから１８歳まで毎年支給される児童手当や、ひとり親家庭への支援や新生児への検査の支援、高校進学時の支援など、少しでも子供を育てやすい街だと思ってもらえるような支援に力を入れている。

また、京都市外から転入してきた人に対しても、様々な条件はつくが、「京都安心すまい応援金」という住宅購入にかかる給付金が支払われる。そのように、いかに京都で長く、安心して暮らしてもらうかということが、しっかり外に伝わるように色々な対応策を採っているところである。

● **ボーイスカウトの活動について**

日本でのボーイスカウトの活動はどうなっているか。今後、京都市と台南市でボーイスカウトでの交流が可能か。また、交流の際、京都で見学するようなところはあるか。2026 年にボーイスカウトを連れて国際交流のために群馬県に行くが、子供たちは毎日、インターネットの中の世界にばかりいないで、ボーイスカウトに参加して、外で人と触れ合うことが必要だと思っている。対面が難しいのであれば、オンラインでもいいので、ぜひ検討してほしい。

⇒・　日本でもボーイスカウトは少子化や時代情勢の変化により参加人数は減少している。京都市会では、金銭的な支援などはできていないが、議員連盟を立ち上げ、後援している。交流の申し出は大変ありがたい。前向きに進められればと思う。

（出席者一同）

（記念品贈呈）

（意見交換の様子）

（８）「陶芸台日交流展 in 台南―京都陶磁器協同組合連合会設立五十周年記念」開会式

１　**日　時**　令和７年１２月１７日（水）１０：００～１１：００

２　**場　所**　台南市総爺芸文センター

３　**出席者**

台南市長　黄　偉哲　氏

京都陶磁器協同組合連合会　代表理事　釋　博史　氏

表千家　森　浩倫氏

台南市台日文化友好交流基金会　栄誉董事長　郭　貞慧　氏

董事長　李　退之　氏

京都市産業・文化融合戦略監　草木　大　　他

台南市派遣京都市会議員団

４　**陶芸台日交流展の概要**

京都市と台南市が令和３年６月に交流推進協定を締結してから４周年

を迎えること及び京都陶磁器協同組合連合会が設立５０周年を迎えることを記念して開催された。会期中は作品の展示に加えて、京都の陶芸家による台南工房訪問や、日台の陶芸家同士の対談といった交流が行われる。

５　参加内容

○　久保田副委員長からの挨拶

台南市と京都市は、2021 年に交流推進協定を締結し、議会においても、2018 年に友好交流協定を締結し、相互理解を深めてきた。

昨年１１月に京都市で開催された台南茶陶器と京焼・清水焼の展示会が成功に終わり、その御縁が切れることなく、台南の地で再び展示会が開催されたことを喜ばしく思う。この展示会を訪れた方々に、京都市の文化を知っていただくとともに、京都の陶芸家も台南市の文化に触れ、知っていただく良い機会になることを御期待申し上げる。

京都市会としても、引き続き議会間の友好関係を深めるとともに、様々な分野において市民同士の交流の輪が広がるよう、なお一層の努力を重ねてまいる。

○　まとめ

台南市から開会式への招待を受け、京都市会議員団として参加した。

開会式では、黄偉哲台南市長の挨拶、京都市長からの祝賀メッセージ（草木大京都市産業・文化融合戦略監による代読）に続き、訪問団を代表して久保田正紀議員が挨拶を行った。京都陶磁器協同組合連合会の釋博史代表理事、台南市台日文化友好交流基金会の李退之董事長からの挨拶の後は、台南市と京都市で記念品の交換贈呈が行われた。

その後、場所を庭園へ移し、表千家の森浩倫氏らによる日本茶道のデモンストレーションが行われた。京都市会議員団は、台南市側参加者らとともに呈茶のふるまいを受けた。台南市では、表千家の森浩倫氏が積極的に茶道の普及活動を図っておられ、多くの台南市の方々が茶道に取り組み、親しんでおられることがわかった。

開会式後、建物内に設けられた陶芸展の作品会場に移り、日台双方の陶芸家による作品を視察した。清水焼は素朴な質感を大切にした作品とともに、細密な装飾と多彩な色彩で華やかな美しさがある作品が多く展示されていた。一方、台南の陶芸家の作品は、素朴な風合いを大切にした深みのある作品が多く、一見して、清水焼との作風に顕れる文化的背景の違いが感じられた。

双方のコントラストが文化の交わりを強く感じさせる素晴らしい作品展示であり、こうした伝統工芸を通じた文化交流は、相互理解を深めていくうえで、極めて意義のある取組であるとの認識を得た。

（交流展パネル）

（受付　出席者サイン）

（出席者一同）

（久保田議員挨拶）

（記念品交換贈呈（台南市及び京都市））

（茶道デモンストレーション）

（展示作品）

（展示会場視察の様子）

注：各関係先との意見交換等の内容のうち、人数、金額等の各種数値や制度等については、概ね通訳を通じてその場で聴取した内容であり、当事者の認識に基づくものです。当事者の認識違いや通訳時の行き違いなどにより、実際の事実関係とは異なる場合があります。

資料　京都市会議員団の派遣の目的及び台南市との友好交流の経過

１　台南市との友好交流の経過

（１）京都市会と台南市議会との議会友好交流協定の締結

京都市会は、台南市が平成２４年４月に世界歴史都市連盟に加盟して以降、台南市議会議長や議員、台南市長をはじめとする台南市の方々から、何度も本市への訪問を受けるなど、交流を重ねてきた。

（平成２９年１月　台南市議会による京都市会表敬訪問・意見交換会）

平成２９年１０月には、京都市会議長が市会を代表して台南市を訪問し、台南市議会議長との間で、議会同士の交流の更なる促進により、市民同士の交流を進めることの必要性をはじめ、同じ古都として政策上の課題を共有し、お互いに学び合うことの重要性などについて確認した。また、京都市会議長から、当時の代理市長に対し、京都市長からの親書を手渡している。

（平成２９年１０月　京都市会議長による台南市訪問）

平成３０年１月には、台南市議会から、両議会間の友好交流協定を締結したいとの意向が正式に示された。これを受け、京都市会においては、これまでに築いてきた両議会の友好関係を更に促進させるとともに、市民同士の交流の輪を広げ、相互理解を深めることが、両市の発展に寄与するとの考えの下、同年６月１３日に、京都市会として初めての他都市議会との友好交流協定となる「京都市会と台南市議会との友好交流に関する協定」を締結した。

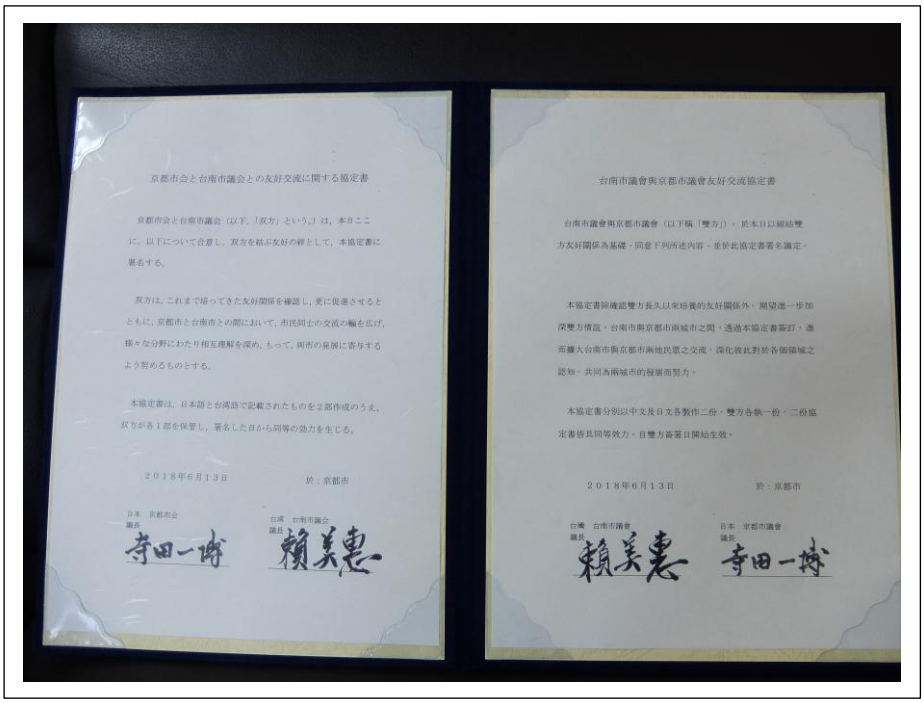
折しも、同年は、京都市の「世界文化自由都市宣言」から４０周年という節目の年に締結されたものであり、この協定は、「文化による世界との自由な交流と平和の実現」という宣言の理念にも沿うものである。

協定の締結式は、同日に、台南市議会議長をはじめとする議会の代表団を京都市会にお迎えして実施された。

（平成３０年６月　京都市会と台南市議会との友好交流に関する協定締結式）

台南市議会からの協定締結記念品（壺）と協定書（写し）は、平成３０年８月から１０月末までの間、本庁舎１階と２階の間の踊り場に展示された。

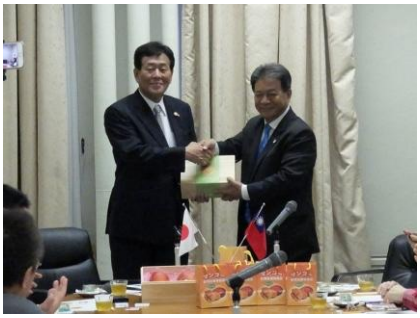
（協定書）



（２）議会友好交流協定締結後の取組

令和元年７月１１日、台南市議会訪問団、計４４名の表敬訪問を受け、京都市会議長、副議長及び市会運営委員会理事が、京都市長同席の下、応対し、記念品の交換等を行った。

（令和元年７月　台南市議会からの表敬訪問の様子）



令和２年１０月１０日から同年１２月２５日までの間、台南市において、京都の西陣織をテーマにした「和風文化祭」が、京都市及び西陣織工業組合と連携して開催された。開催に当たり、京都市会議長から書面メッセージを、京都市会議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長からお祝いビデオメッセージを送付した。

（令和２年１０月　ビデオメッセージ及び和風文化祭でのビデオメッセージ紹介の様子）

令和６年２月２３日から同月２５日にかけて、台南市から、同市において開催される２０２４台湾ランタンフェスティバルに御招待をいただいたことを受け、台南市議会や台南市台日文化友好交流基金会、台南市旅行商業同業公会との意見交換及び林百貨と台南市美術館といった歴史的建造物の活用事例の視察などを兼ねた、京都市会議員団による台南市訪問を行った。

また、同年４月２６日に当該訪問の内容を執行機関と共有し、意見交換を行った。

（令和６年２月　京都市会議員団による台南市訪問の様子）

（３）京都市と台南市との交流推進協定の締結

令和３年６月、京都市会と台南市議会との友好交流協定締結３周年を迎えることを契機に、台南市の申出を受け、京都市と台南市が協定を締結した。締結式には、京都市会から、京都市会議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長が出席した。

本協定は、文化・学術・観光など様々な分野における市民同士の交流を通じて、相互理解と連携を深め、両市の繁栄と発展に寄与するよう努めるものである。

（令和３年６月　京都市と台南市の交流推進協定締結式）

（４）交流推進協定締結後の取組

令和３年１１月３０日から令和４年１月９日までの間、台南市において、「台南市・京都市交流推進協定締結記念特別展示」が開催された。開催に当たり、京都市会議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長からビデオメッセージを送付した。

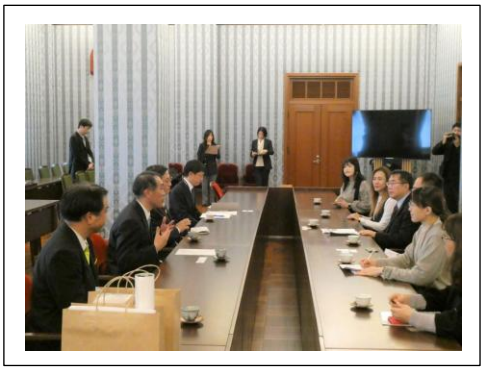
（令和３年１１月　ビデオメッセージ及び特別展示チラシ）

令和６年１１月１５日から同月２３日までの間、京都市及び台南市との交流推進協定締結３周年を記念し、京都市において、特別展「台南茶陶器と京焼・清水焼」が開催された。開会式には、京都市会から、京都市会副議長をはじめ議員複数名が出席した。

（令和６年１１月　開会式の様子及び特別展チラシ）

令和６年１２月９日、台南市長の京都市表敬訪問を受け、京都市長及び京都市会議長をはじめ、関係議員が出席した。

（令和６年１２月　台南市長の京都市表敬訪問の様子）



（５）台南市及び台南市議会との友好交流　経過一覧

平成２４年　４月　台南市が世界歴史都市連盟に加盟
９月　台南市長が市長を表敬訪問（市会議員同席）
１２月　台南市教育委員会が本市教育委員会を訪問
平成２５年１２月　台南市副市長が市長を表敬訪問（市会議員同席）
平成２７年１１月　京都国際マンガ・アニメフェア２０１５の関連事業として、京都市、台南市双方でアニメによる文化交流事業を実施
平成２８年　２月　６日に発生した台湾南部地震に対し、市長名（世界歴史都市連盟会長）にて見舞状を送付。国際交流会館に募金箱を設置
９月　台南市文化局長が市長を表敬訪問（市会議員同席）
平成２９年　１月　台南市議会訪問団の表敬訪問
７月　台南女子高校の生徒が市長、議長を表敬訪問
８月　台南市長、台南市議会議員など訪問団が市長、議長を表敬訪問
１０月　国立台南芸術大学関係者が市長、議長を表敬訪問
議長が台南市を訪問
平成３０年　１月　台南市議会議長から友好交流協定締結を求める親書を受理
６月　１３日に「京都市会と台南市議会との友好交流に関する協定」を締結
令和　元年　７月　台南市議会訪問団の表敬訪問
令和　２年　５月　台南市から保護メガネ３００個の支援を受ける
１０月　台南市・台南市台日文化友好交流基金会により「和風文化祭」を開催。京都市・西陣織工業組合が連携し、展示等を実施。

開催に当たり、議長からの書面メッセージと、議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長からお祝いのビデオメッセージを送付

１１月　京都市国際交流会館にて「京都市・台南市相互展示コーナー」を設置し、台南市を紹介

令和　３年　６月　３０日に執行機関において、京都市と台南市の交流推進協定を締結し、議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長が出席

１１月　３０日から令和４年１月９日まで、台南市にて、台南市と京都市との交流推進協定締結を記念した「台南市・京都市交流推進協定締結記念特別展示」を開催。京都を紹介する展示、京都を舞台にした映画上映会、京都文化講座等を実施。

開催に当たり、議長、副議長及び議会友好交流協定締結時の議長から、お祝いのビデオメッセージを送付

令和　４年１１月　京都市国際交流会館の国際交流イベント「ｋｏｋｏｋａオープンデイ」において、会館内に協定締結した台南・高雄紹介コーナーを設置し、両市のパネル展示や出身留学生による両市を紹介するギャラリートークを実施

令和　５年　７月　議会友好交流協定締結時の議長が日台交流サミット開催実現に向けた協力要請のため訪台した際、市長から台南市長、議長から台南市議会議長への親書を送付

１２月　台南市議会事務局職員の表敬訪問

令和　６年　２月　台南市からの台湾ランタンフェスティバル 2024 への招待を受け、訪問団（副議長ほか議員４名）が台南市訪問

７月　「第１０回全国日台国際交流サミット in 台湾」が台南市で開催され、日台議連関係議員他が出席

１１月　「台南茶陶器と京焼・清水焼～京都市・台南市交流推進協定締結３周年記念展～」の開会式に、副議長ほか複数議員が出席

１２月　台南市長が市長を表敬訪問し、議長ほか議員１名が同席

令和　７年　１月　台湾南部で発生した地震を受け、議長及び副議長連名で台南市議会へ見舞文を送付

○　台南市との民間交流

平成１８年　　京都大学と台湾国立成功大学（台南市）が防災・理工化学等の分野にて協定を締結
平成２４年１０月　高台寺が東日本大震災への台南市民の支援に感謝し、台南市で茶会を開催
平成２７年　８月　日台おこしやす実行委員会により、「日台青少年文化交流 in KYOTO」を開催（平成２９年７月、令和元年６月にも開催）
平成２８年　３月　京都薬科大学と台湾国立成功大学（台南市）が学生交流、研究等の分野にて学術交流協定を締結
平成２９年　６月　台南市長の要請で、台南公園内の日本庭園整備を北山造園の北山安夫代表（高台寺専属庭師）が実施。台南公園開園１００周年記念式典に出席
令和　元年１１月　京都先端科学大学と台湾国立成功大学（台南市）が学生・教員の交流、共同研究等の分野にて学術交流協定を締結
令和　２年　５月　台南市台日文化友好交流基金会から防護服５２０着、保護メガネ１，０００個の支援を受ける
１０月　台南市・台南市台日文化友好交流基金会により「和風文化祭」を開催。京都市・西陣織工業組合が連携し、展示等を実施
令和　５年　３月　台南市からの台南古都国際ハーフマラソン大会の無料ランナー枠の提供を受け、京都市において広報した結果、３名の京都市民が同大会及び前日の歓迎会に参加
令和　６年　５月　台北駐大阪経済文化弁事処を通じて「TAIWAN PLUS 2024 京都新宝島」の開幕式への招待があったため、議長ほか議員１名が出席
６月　国立台南女子高級中学の学生や台南市台日文化友好交流基金会、日台おこしやす実行委員会など、関係者が京都市及び京都市会を表敬訪問
１１月　台南 400 マラソン大会に京都市民２名が参加
令和　７年　３月　台南古都国際ハーフマラソン大会に京都市民１名が参加

２　これまでの交流による成果

この間、議会間及び都市間において交流を重ねてきた結果、令和７年５月１３日付けで、台南市と京都市の交流・協力促進に寄与したことを称え、寺田一博議員が台南市から台南市栄誉市民証書を授与された。これを受けて、同月２３日の本会議において、議長が京都市と台南市との更なる交流の促進と発展に向けた決意表明を行ったところである。

また、同年１０月１５日の自治記念式典において、台南市台日文化友好交流基金会の郭貞慧栄誉董事長に対し、都市間の友好親善や国際交流の推進に継続的に取り組み、「世界文化自由都市宣言」の実現に大きく貢献されたとして、本市から国際交流推進特別表彰を授与した。